

3 グループ

私たちは「人になれ 奉仕せよ」について、まず「人になれ」とはどういう意味なのかを中心に話し合いました。

人になるとは、自分と他者について考え、理解しようとする事だと考えました。自分自身を理解する為には、まず自分について知ることが大切だと思います。

自分について知るには、視野を広くして自分を受け止めることが必要だと考えます。自分について知り、受け止めることは自分自身を見つめるということです。そのためには、他者と関わる事が必要なのではないかと考えました。他者と関わるなかで、自分自身が思っている自分と、他者が思っている自分に違いが生じていると気付くことができます。例えば、他者とコミュニケーションをとることが苦手で、相手のことをあまり知ることができていないと思っている自分と、コミュニケーションもしっかり取れていて、相手のことをよく知ることができていると、他者が思っている自分がいるという事があります。或いは、自分は周囲の人たちに気を配って行動したつもりが、周囲の人たちからはお節介と思われているというように、他者から見たら気配りはできていないと思われている場合もあります。どちらの場合においても、自分が思っている自分と他者が思っている自分は、自分自身だと受け止める事が必要だと思います。何故ならば、他者が思っている自分を受け入れられずに跳ね除けてしまっていると、自分がまだ見つけられていない自分に気付くことができないからです。

つまり、対人関係をもつことは自分を知るプロセスだと考えました。誰もが何かしら他者と比較しながら生きています。比較することにより、自分の良いところや秀でているところに気づくことがあります。また、時には挫折を味わったり、もう一度立ち直ろうと頑張ることがあると思います。それは他者がいるから経験できることであり、自分を見つめ直し、自分を知るきっかけになると考えました。また、指摘を受けて気づくこともあります。「この部分に注目すればもっと良い出来になるのではないか」と自分が思いつくことの出来なかった考えを周囲の人が気づかせてくれることがあります。このように、他者からの指摘や他者と比較して自分で気づけた事を受け入れることで、自分では考え付かなかった他者の考えを得ることができます。他者が思っている自分も自分だと受け入れることが、人になるには大切だと思います。

できないと思っていたこと、苦手だと思っていたことにも取り組むことで、新たな自分の可能性が広がっていくと考えました。自分の可能性を広げることで、自分と他者について考え、理解できるようになることが人になるということなのだと思います。また、それは人として成長するということなのではないでしょうか。自分と他者について考え、理解できる人になることで奉仕ができるようになると思います。

では、次に私たちが考えた奉仕について説明をします。今の自分を知り、自分ができる最大限の努力とは何かを考えること、また実際に自分ができることを実行することが奉仕だと考えました。具体的に言うと、街中で倒れている人に遭遇したら周囲の人に助けを求めことや、救急車を呼ぶこと、AEDを用いて救命処置を行うことなど自分にできる最大

3 グループ

限の事は何かを考え、実行することです。

奉仕について皆で話し合っている時に、一人の学生から実習先で患者さんが私たちの学びの為に学生の受けもちを受け入れてくれたということも奉仕なのではないか、という意見が出ました。前回の実習では、不慣れな血圧測定も患者さんは快く受け入れてくれました。また、緊張して上手く話せなかった私たちにたくさん話しかけてくれました。患者さんは療養の為に入院しているのだから、本来受け入れなくても良いはずですが、見返りを求めないこの行動こそが、まさに奉仕だと思います。では、私たちには何ができるのだろうかとおもひながら話し合いました。

私たちができることは、受け持ち患者さんに合った援助を行う為に、最大限の努力をする事ではないかと考えました。実習の前に事前学習をしていく事、分からない事は積極的に聞きに行くこと、指導者のアドバイスを受けとめ大事にすること、患者さんの思いを親身に聞くこと。これらが今、私達に出来る事だと思います。

行ったことが必ずしも奉仕になるかはわかりませんが、実習生として病棟の看護師や指導者、実習に携わって下さる全ての方々との関係を大事にしながら、精一杯自分達にできることをしていきたいと思っています。

これで私たちの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。